

海を渡る祈りの響き

～シターと歌う平和への祈り～



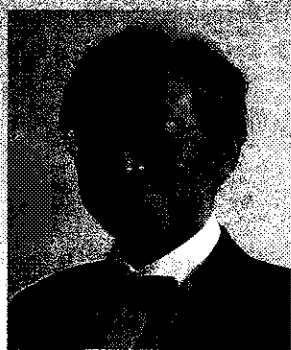
白井 朝香

広島在住のヴァイオリン、シター奏者。1988年より94年まで新広島フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を務める。2004年日本プロ録音音楽賞優秀賞受賞。2010年光の響サロンを創立。2013年3月イタリアにてヴァイオリンコンサートを開催。また、宮島観光大使に任命され、世界遺産厳島神社にて奉納演奏。エクスマンプロヴァンスの仏日協会主催東日本大震災チャリティイベントに出演協力、2014年ブサンにて韓日親善協会20周年記念公演、青少年国際未来会議ひろしま2015、国連軍縮会議レセプション、平和首長会議にて演奏。2017年には韓国大邱市と広島市との交流20周年記念公演、2018年にはドイツノーブアー市との交流50周年記念公演を務め、被爆70年に鑑みリリースされたCD「海を渡る祈りの響き」はANA国際線の機内オーディオに起用され、パリ、モンサンミッシェルで公演するなど、「音楽を通じ平和希求の祈りを伝える活動」を国内外で展開している。2021年代表を務めるプロテウスアンサンブルによる県立広島病院でのコンサート25周年記念公演で第10回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞を受賞。2022年春 白井朝香シターアルバムⅢ SAKURA～シターで奏でる美しき日本の四季～にちなむ歌曲集を出版。



益田 由身子

エリザベト音楽大学声楽学科卒業。門野光伸、木原朋子、ルチアノ・ベルタニョリオ各氏に師事。1987年から2012年までカント、イタリアーノ公演にて、イタリア歌曲やオペラアリア、クリスマス音楽などを多数演奏。オペラフェスティバル広島に第1回公演から出演し、第6回「花つくり娘」では主演チェッキーナを演じる。現在、朋の会、あえるコンサートなどに出演。また、世界平和記念聖堂パイプオルガン定期演奏会、聖母コーラス定期演奏会、カトリック広島司教区主催の演奏会などで宗教曲のソリストを務める。2016年より「海を渡る祈りの響き」平和コンサートにてシターと共演。現在ノートルダム清心中・高等学校合唱部指導講師。



益田 眞

道後中学校、松山東高等学校を経て広島修道大学卒業。中学在学中、山内千秋教諭の呼びかけで合唱に出会い、高校ではコーラス部に所属し杉森幹子教諭の指導の下、合唱を学ぶ。大学在学中、広島修道大学混声合唱団コーラル・アルバトロスにおいて3年間学生指揮を務め、同合唱団常任指揮者であった池本寿嘉氏の指導を受ける。卒業後、声楽を内田陽一郎、ルチアノ・ベルタニョリオ各氏に師事。2002年、エリザベト音楽大学の附属機関であるエリザベトシンガーズ発足に伴い創立メンバーに選抜。現在、Kammerchor "Hiroshima Kantorei"、Hiroshima Bach Soloists、合唱団 La Paz に所属。広島司教区における教区行事のための聖歌隊、HCC（広島カトリック聖歌隊）指揮者。カトリック幡町教会聖歌隊指揮者。「海を渡る祈りの響き」平和コンサートには2019年より参加。

Cithare

シター(cithare/仏)は、神を賛美する歌や感謝の祈りの伴奏楽器として伝えられてきました。日本ではまだその名をあまり知られていませんが、歴史は古く旧約聖書の詩篇の中にもその名を見ることができます。120本あまりの弦を張り、右手で旋律、左手で和音を指で弾いて演奏する素朴な楽器です。天から降りそそぐような美しく優しい癒しの音色は心に響き渡り静かに波紋を広げています。

——— 白井朝香

Program

- * Ave Generosa / ヒルデガルト
- * 鳥の歌 / カタルーニャ民謡
- * Ave Maria / J.アルカデルト
- * マグダラのマリア / 13世紀コルトーナ地方の聖歌より
- * 優しきキリスト / M.グランチーニ
- * 主は水辺に立ちて / C.ガバライン
- * 聖フランシスコザビエルの歌 / Fr.C.フォネス, S.J.
- * 呼ばれています / 高田三郎
- * 私をお使い下さい / 上村幸一郎
- * 希望の平和 / 新垣壬敏
- * 聖母マレーシス / 新垣壬敏
- * フラタ / 新垣壬敏
- * ごらんよ空の鳥 / 新垣壬敏